

①人とまちを守るみなと

人やモノの物流を支えるみなとでは、地震や津波などの自然災害発生時にも私たちの暮らしを守るため、安全なみなとづくりが進められています。

みなとの役割

津波 地震

災害から
ひとやまちを守る

津波防災ステーション

防潮堤のゲートを離れたところから開閉の操作をすることができます。
また津波の情報をいち早く住民に伝える役割があります。

津波観測システム

耐震強化岸壁

ゲート

防潮堤

緑地

広域防災フロート

耐震強化岸壁

一般的な岸壁より頑丈に作られた岸壁で、大きな地震でも壊れにくくなっています。

広域防災フロート

船と岸壁の間におく浮島で、災害時に港が利用できない場合でも物資を運んだり、ヘリコプターがとまることもできます。
平成23年3月に発生した東日本大震災の時には、東北地方の復旧支援にも活躍しました。



もし津波が起きたら…

津波によって北海道と本州をつなぐ物流ルートが使えなくなっても、別の海上ルートでカバーすることができます。

【本州から札幌へ運ぶ場合】



たとえば 苫小牧港を使った物流ルート

本州 → 苫小牧港 → 札幌

もし、津波が起きたら…

周辺の道路が使えなくなり、苫小牧港の働きがストップしてしまいます。
そこで…

別ルート

本州 → 小樽港 / 石狩湾新港 → 札幌